



河原小だより



「めあてを持って学び 進んで行動
人のことを思う」河原っ子の育成
～笑顔の登校・満足の下校～

NO.23

R2. 11. 27 (金) 文責：井上



充実の秋です！

先週の暖かさから
一変、本来の晩秋の



気候となり季節は冬に向かっていきます。11月は「芸術の秋」、「学問の秋」、「スポーツの秋」・・・それぞれの学年で様々な教育活動が行われました。

スポーツの秋

・・・学校 HP でも紹介しましたが、感染予防のために見合わせていた朝のランニングタイムを始めました。始業前の10分間、各自の目標に合わせて運動場を3～5周走ります。体育でも今週から持久走に取り組んでいます。校内持久走大会が楽しみです。



ランニングタイム

学問の秋

・・・木曜日の朝活動と金曜の5校時はかんぺきタイム、かんぺきDXです。3年生以上の学年で行います。国語、算数の基礎的・基本的事項の定着と、活用力をつけるために担任外も入って指導しています。来週12月1日(火)、2日(水)は3年生以上、熊本県学力学習状況調査が行われます。思考力が問われる少し難しそうな問題です。はじめから難しいと放り出すのではなく、あきらめずに根気強く問題に向かっていく姿勢は子どもたちに求められる力です。家庭学習で集中力が続かないお子さんには一教科15分と決めて学習させる方法は有効かと思えます。15分を毎日継続することが大切です。『継続は力なり！』自分に合った学習法を見つけて頑張らせてください。

読書の秋

・・・今年も家族読書の取組を行います。10月の読書旬間には図書委員会楽しい企画を計画してくれて、子どもたちの読書量が増えました。本日プリントを配布していますが、ご家庭でも家族読書に取り組んでいただきますようお願いいたします。秋の夜長、子どもさんと一緒に読書を楽しむ一時をつくっていただけたらと思います。子どもたちのまわりには、ゲーム・パソコン・スマートフォンなど電子メディアがあふれていて、刺激的で面白い情報を手軽に手に入れます。一方で、それにより家族の会話が少なくなったり、子どもたちの心が不安定になったりと、新たな社会問題も発生しています。家族読書の最大のメリットは家族のコミュニケーションを生み出すことではないかと思えます。一冊の本を通して家族で色々なことを話すきっかけにもなりそうです、子どもと一緒にいられる時間は案外短かったな・・・と子育てを終えた今、そう思います。子どもが大きくなるのはあつという間です。読書を通して子どもさんとしっかりふれ合っていたきたいと思えます。

体験の秋

・・・毎年「のぎく荘」へ3年生がお邪魔して交流しているのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、交流ができませんでした。そこで、社会福祉協議会から来校いただき、車椅子で福祉車両にのせてもらったり、お年寄りの疑似体験をさせてもらったりしました。

大切畑ダム見学

・・・4年生は大切畑ダム見学に行きました。熊本地震で被災したため、復旧作業が進められています。大切畑ため池は農業用ため池で高さ23メートルのアースダム・大切畑ダムによって形成されます。令和6年3月に完成予定だそうです。排水トンネルに水が入る前に西原の子どもたちに見学をさせていただきました。



トンネル見



疑似体験

福祉体験

○・・・1kgの重りを体につけたり、腰が上がりなくなるベルトをつけたりして階段を上がったたり下りたりしました。とても動きづらかったです。お年寄りのきつさが分かりました。
○・・・車いすをおすのはとても大変でした。福祉体験をしてみて、高齢者の方に「早く来て・・・急いで」と言わないようにしたいです。〈子どもたちの作文から抜粋〉

